

2020年度 WAM助成事業 活動報告

©K2 ITソリューション部 評価分析チーム

令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉進行助成事業

WAM助成事業

・ 3つの事業を通じて、ひきこもり・不就労の子どもを持つ
保護者への支援の入口を強化し、
8050問題の予防となる早期介入、早期解決につなげる。

①親サロン

(ピアサポートカフェ)

②8050セミ

ナー

③冊子発行

課題整理：保護者が抱える課題

- ・ 保護者の段階に応じた悩みがあり、それらに対応する事業を実施する必要がある

当事者の向き合う問題

問題と思わない

- ・ 親と子のコミュニケーションの問題
- ・ 現状と見立てにずれがある

問題と思っても
対処法が不明

- ・ 支援先とつながっていない
- ・ どこが最初の窓口入口なのかわからない

対処法がわかっても
活用ができない

- ・ 支援先ショッピング
- ・ 支援先の言葉を受け入れられない
- ・ 本人に言えない
- ・ 適切な支援先に出会えない

活用できても
不安が継続

- ・ 老後・介護の問題
- ・ 金銭的な課題
- ・ 精神的な不安



課題整理：社会が抱える課題

- ・ 8050問題の予防には早期介入が必要不可欠だが、十分な社会資源が無く、窓口となる支援者にも知識が足りていないことが多い

社会の向き合う問題

問題と思わない

- ・ ひきこもりは家族の問題・責任
- ・ 偏見
- ・ 親の課題と子の課題をリンクできない
- ・ 子の課題に対して、8050問題の予防的観点からの知識がない

問題と思っても
対処法が不明

- ・ つなぎ先がわかりづらい
- ・ 支援の最初の接点を作りづらい
- ・ 窓口となる人の知識不足や、行政の縦割り支援などにより、適切なつなぎ先を提案できない

対処法がわかってても
活用ができない

- ・ リードする支援者が少ない
- ・ 経験者ではない場合、理解共感が難しい
- ・ 適切なつなぎ先が少ない
- ・ つなぎ先との連携が難しい

活用できても
不安が継続

- ・ 当事者の課題整理が不十分
- ・ 資源の活用=解決ではないので、「つながりつづける」ためのサポートが必要だが、社会資源が充分とは言えない

※親の課題：高齢・介護・福祉
子の課題：不就労・ひきこもり・発達課題や精神疾患



3つの事業で、課題解決を目指す

保護者

①親サロン
(ピアサポートカフェ)

保護者同士のサロン
家族会メンバー（ピアサポーター）も参加

保護者

社会

②8050セミナー

専門家によるセミナー形式の勉強会
地域・行政の支援者も参加

保護者

社会

③冊子発行

事業報告と保護者の声を掲載
3月末発行

問題と思わない

問題と思っても
対処法が不明

対処法がわかってても
活用ができない

活用できても
不安が継続

冊子発行

8050セミナー

親サロン

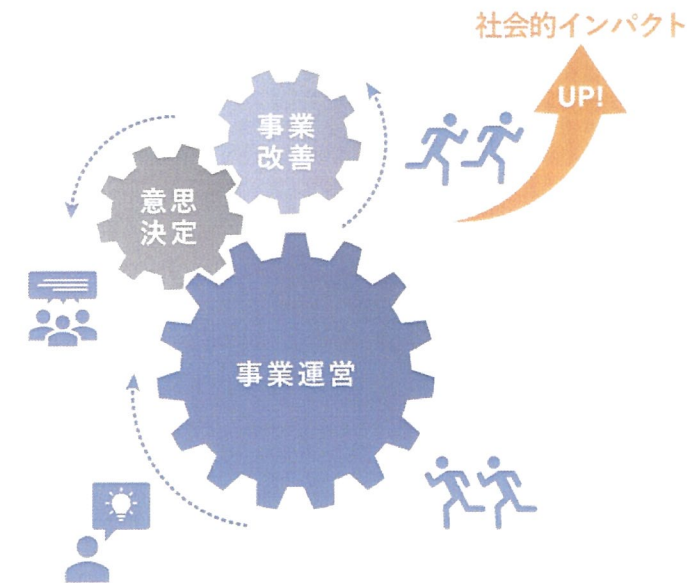




今年度の事業成果について

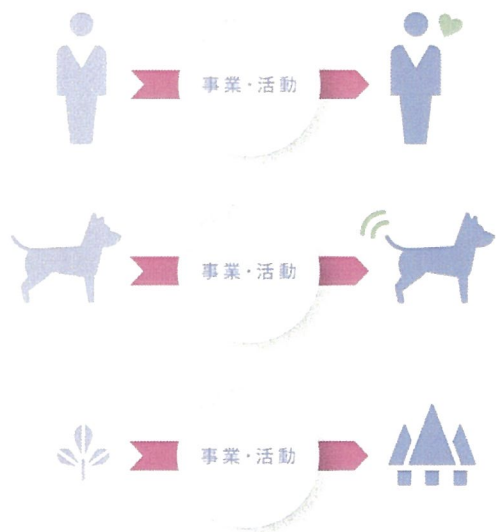
「社会的インパクト評価」にチャレンジ

- WAM事業では、事業の結果として生じた社会的な成果（=社会的インパクト）
見える化（=社会的インパクト評価）しました
- 見える化した結果を、
資金提供者へ説明責任を果たすためだけでなく、
今後さらに社会的な成果を拡大するための学び・
改善に活用（=インパクト・マネジメント）します



社会的インパクトとは

- 事業や活動の結果として生じた「社会的・環境的な変化・便益・成果」のこと



- 短期、長期の変化を含む
- 直接、間接の影響を含む
(受益者とその周辺や関係者など)
- 例えば
 - 受益者であれば、知識・意欲・行動・態度・スキルなどの変化
 - 制度であれば政策変更

→これを可視化するのが「社会的インパクト評価」

「社会的インパクト評価」が求められる理由

- 国際的な潮流

- 事業や活動による社会的な価値を「見える化」する
- これを「検証」し、自らの組織・活動に関して学ぶ
- 資金提供者などのステークホルダーへの説明責任を果たす



- 背景) 資金提供者の意識の変化

- 助成財団や投資家が社会的課題の解決に直結するような成果を重視
- 協働や社会的インパクト投資の前提として社会的な価値を可視化する必要性の認識
- 日本では、社会的課題の多様化・複雑化、社会保障費の増大等による財政的な制約があり、社会的な価値を「見える化」し、行政を補完する新たな公益活動の主体を評価し、成長させる枠組み

見える化の流れ



Step1 **ロジックモデルをつくる**

「社会的インパクト」を生み出す道のりを見える化する



Step2 **インパクトマップをつくる**

データ収集の方法を一覧化する



Step3 **データを収集する**

アンケート、インタビュー等を通じてデータを集める



Step4 **データを分析する**

期待した成果が上がっているか、課題はないかを分析する

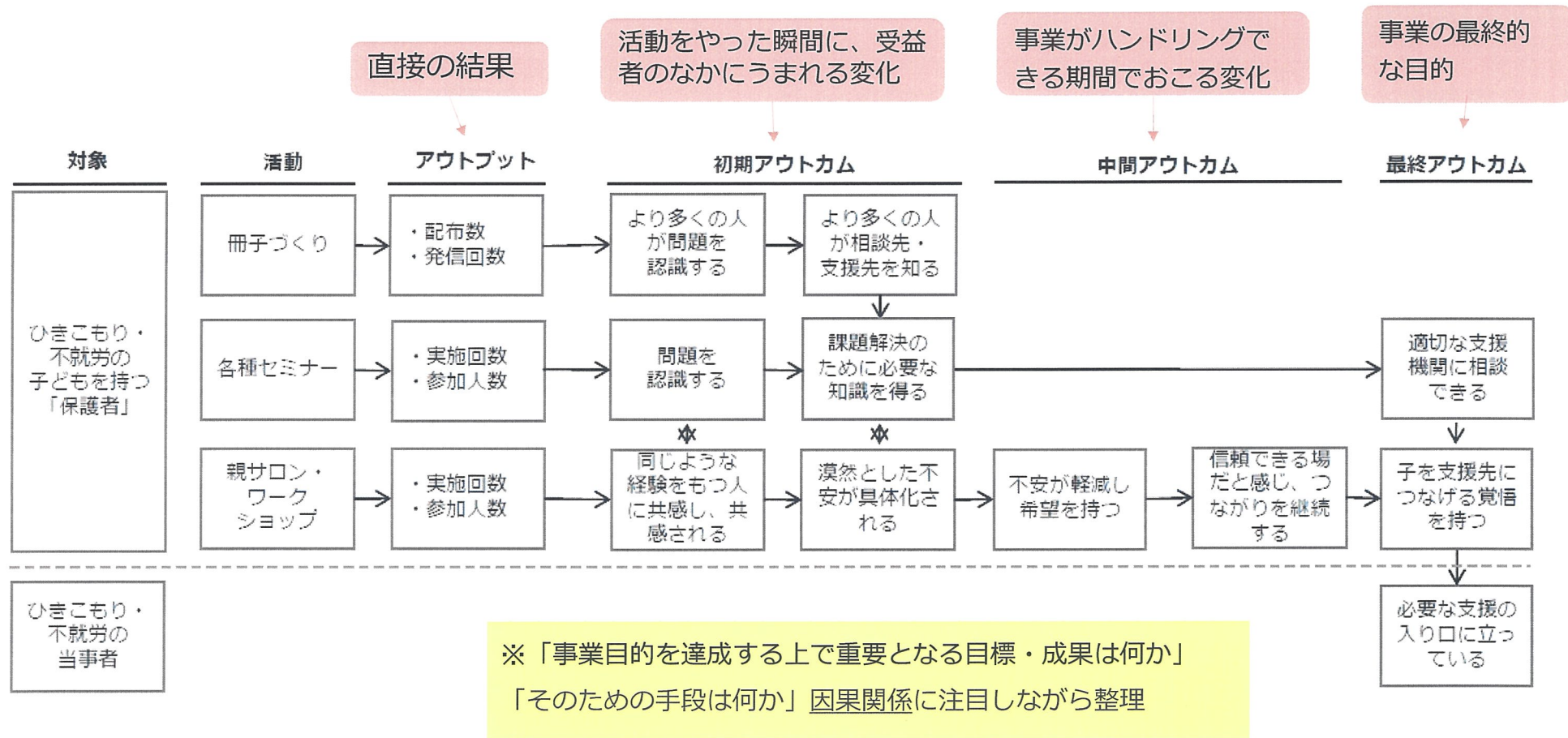


Step5 **事業改善につなげる**

結果を共有しあい、学ぶ、事業を改善する



Step1 ロジックモデルをつくる





Step2 インパクトマップをつくる

活動	期待するアウトカム	アウトカム達成に必要なこと	ステイクホルダー	測定方法	問い												指標	測定結果(平均)	測定結果
サロン 初期	同じような経験を持つ人に共感する、される	安心できる雰囲気	保護者	アンケート7	1. サロンに参加しての変化・成果 2. 小項目の期待度・実現度	Q1.総合的に見て、今後もサロンや、その他の場へ行ってみたいと思いましたか？													
サロン 初期		吐き出しやすい環境	保護者	アンケート7		1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 非常にそう思わない													
サロン 初期		適切な時間配分	保護者	アンケート8		Q2.. 下記スケールに従い、(1)から(10)までの項目に関する「期待度」、「実現度」それぞれに○をつけてください。													
サロン 初期		同じような経験を持つ人	保護者	アンケート1		1. 非常にそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. そう思わない 5. 非常にそう思わない													
サロン 初期		信用できる団体(スタッフ)	保護者	アンケート4		それぞれの項目について期待していましたか？					それぞれの項目について実現されましたか？								
サロン 初期	漠然とした不安が具体化される	新たな視点の気づき	保護者	アンケート6		1. 同じような経験を持つ人の話が聞けること	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 初期		現在の課題の整理	保護者	アンケート6		2. 不安を言葉にしたり吐き出しができること	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 初期		不安の言語化(吐き出し)	保護者	アンケート2		3. 不安が軽減されること	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 初期		適切な助言(スタッフ・先輩)	保護者	アンケート5		4. 団体スタッフの話が聞けること	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 初期						5. 具体的・適切なアドバイスがもらえること	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 中期・中間	不安が軽減し、希望を持つ	不安の軽減・解消	保護者	アンケート3		6. 何をやるべきか、何が必要かを 知る事	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 中期・中間		ステップの明確化	保護者	アンケート6		7. 思っている事を言い出しやすい環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 中期・中間		具体的な繋ぎ先の提示、助言	保護者	アンケート5		8. 適切な時間配分	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 中期・中間							1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 中期・中間							1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
サロン 中期・中間	相談できる場として信頼し、つながりを持ち続ける	場への信頼	保護者	ヒアリング															
サロン 中期・中間		人(先輩)への信頼	保護者	ヒアリング															
サロン 中期・中間		スタッフへの信頼	保護者	ヒアリング															
サロン 中期・中間		団体への信頼	保護者	ヒアリング															
サロン 中期・中間		継続参加	保護者	ヒアリング															
サロン 最終	当事者である若者を支援	明確な意志	保護者	ヒアリング															
サロン 最終		信頼できる支援者	保護者	ヒアリング															
サロン 最終		先につなぐ覚悟を持つ	保護者	ヒアリング															
サロン 最終	当事者である若者が必要な支援の入り口に立っている	適切なタイミング	保護者	ヒアリング															
サロン 最終		家族の協力・同意	保護者	ヒアリング															
サロン 最終		具体的な行動	保護者	ヒアリング															
サロン 最終		若者の意志	当事者	ヒアリング															



Step3 データを収集する

①ピアサポートカフェ

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人数)
参加者	6	5	12	8	12	6	3	8	-	60
家族会 (ピアサポーター)	7	4	4	6	2	5	3	7	-	38
合計	13	9	16	14	14	11	6	15	-	98

- ・今回、同じ様な課題を持ち、改善や解決に繋がりがつある、「先輩」＝「ピアサポーター」として、K2家族会のメンバーの参加をお願いした
- ・課題（悩み）ごとにグループを分け、そこに一人はピアサポーターを配置した
- ・ピアサポーターには事前に他の参加者の来歴や課題を共有した

ピアサポートカフェK2参加者アンケート

このたびは、ピアサポートカフェK2にご参加いただきありがとうございます。
K2インテグレーショングループでは、皆様のご意見を今後の改善活動の糧にさせていただきたく存じます。
お名前ですが、アンケートには記載いたしません。
ご不明な点がございましたら、K2スタッフまでお尋ねください。
*必須

1. 名前
あなたご自身とお子さんの名前をそれぞれ入力してください
2. あなたの性別を
1つだけマーク
 男性
 女性
3. あなたの年代を
1つだけマーク
 30代
 40代
 50代
 60代
 70代
 80代
4. あなたの子どもさんの性別を教えてください
1つだけマークしてください
男性
女性
5. あなたが
下記の項目について、参加前の課題を教えてください
1つだけマークしてください
6. 参加した
理由
1つだけマークしてください
 悩みを共有したい
 悩みを解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
7. 参加した
理由
1つだけマークしてください
 悩みを共有したい
 悩みを解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
8. 参加した
理由
1つだけマークしてください
 悩みを共有したい
 悩みを解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
9. 参加した
理由
1つだけマークしてください
 悩みを共有したい
 悩みを解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
10. 参加した
理由
1つだけマークしてください
 悩みを共有したい
 悩みを解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい
 悩みを共有し、解決したい





Step3 データを収集する

②8050セミナー

	①	10月	11月	12月	1月	計(人数)
参加者	36	36	27	28		127
スタッフ	18	13	13	11	30	85
合計	54	49	40	39	30	212

各回
タイトル

<p>9月26日(土) 13:30~</p>	<p>オンライントピック</p> <p>8050問題の背景にある社会課題を考える ～若者のアンダークラス化を防ぐ為に～</p> <p>講師：放送大学名誉教授 宮本 みち子 氏</p> <p>家族社会学、若者の社会学、生活保障論、若者支援、生活困窮者支援などに長く研究調査されてきた宮本氏から8050問題の背景と立派な日本の社会と若者の置かれてきた現状の変化についてお話しいただきます。</p>	<p>【第三回】 11月28日(土) 13:30~</p>	<p>オンライン開催</p> <p>「介護現場から見る8050問題」</p> <p>講師：おみの園 施設長 木内 菜穂子氏</p> <p>戸籍上にある特別養老ホームの施設長であるおみの園は、施設を地域に開きお年寄りから暮らしやすさまで全ての世代が気楽に寄り添うことを目指しています。福祉と連携した介護の現場の中で、介装される方の実状の把握に努められています。介護現場から見える8050問題を施設の事例を通してお話し頂く共に、生きづらさを抱える若者と親の介護について考えます。</p>
<p>10月24日(土) 13:30~</p>	<p>「8050問題と生活困窮者自立支援制度」</p> <p>講師：よこはまニュース事務局長 光橋潤平健康福祉局 巻口 徹氏</p> <p>公的な制度の最後のセーフティネットとして生活保護制度があり、制度の活用を促す制度として生活困窮者自立支援制度があります。「Dはこもり」相談、制度の課題にある「8050」問題、横浜市の新たな取組みを提案されています。公的な支援制度と民間の取り組みのお話をさせていただきます。</p>	<p>【第四回】 12月5日(土) 13:30~</p>	<p>「8050問題とお金について考える」 (生きづらさを抱える若者と年金について)</p> <p>講師：社会福祉学博士 相川 AI (アイ) コンサルティング所長 相川 裕里子氏</p> <p>障害・老後年金などの相談、経済的困窮2020年国の実情を伴った課題は、相川こもり状態の方への支援からの相談を受ける機会が多くなるそうです。生きづらさを抱える方のセーフティネットとしての「障害年金」について、深く知り得るお話しについての話を、実際の事例を交えてお話しさせていただきます。</p>

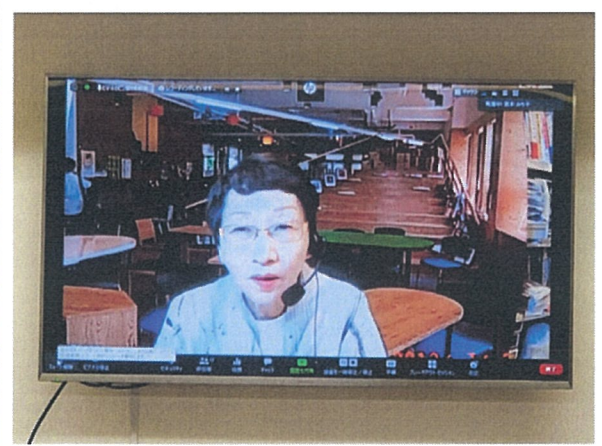
8050問題を考えるセミナー 参加者アンケート

このアンケートはご参加いただいた皆様からご意見を伺うために、アンケートの作成からアンケートの回収まで、半信半疑のアンケート運営と内容をお書きしてまいりたいと思っております。つきましては、ご参加の趣意なアンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いいたします。

*必須

- 名前 (省略可)
- このセミナーに関する以下の項目について、お考えをお聞かせください。
- 今回のセミナーは、ご自身の今後の行動や仕事に活かせる内容がありましたか？
- 今回のセミナーにも参加したいと思いませんか？
- セミナー開催についての感想がございましたらご記入ください。

アンケートは以上です。ありがとうございます。





Step4 データを分析する

① ピアサポートカフェ アンケート分析から見えた事

※1月末実施時点

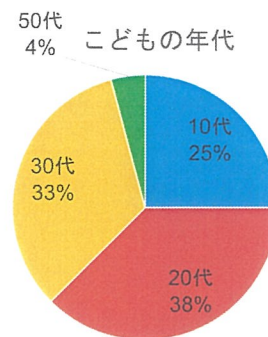
50代女性がメインの参加者

	女性	男性
40代	13%	
50代	46%	17%
60代	8%	4%
70代	4%	8%

・参加実人数24名を性別と年代で分析

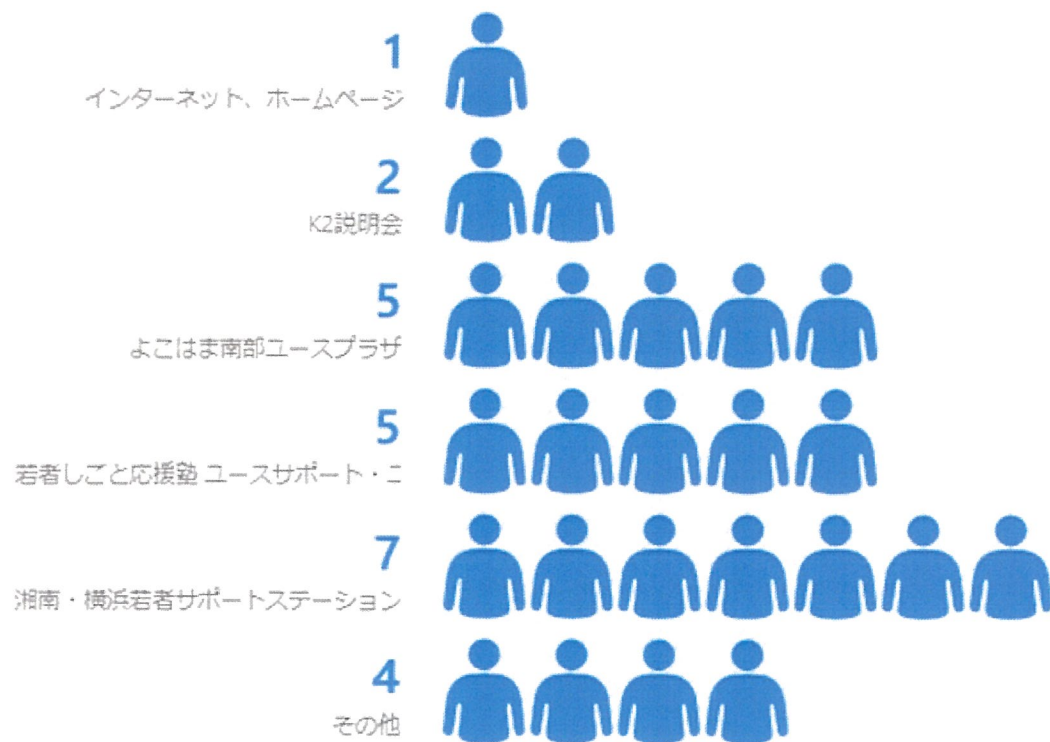
・50代女性が46%と半数近い

・こどもの年齢は20～30代が大半をしめる
→50代の親が多いことと対応している



相談事業所からの誘導が中心

参加のきっかけ（人数）



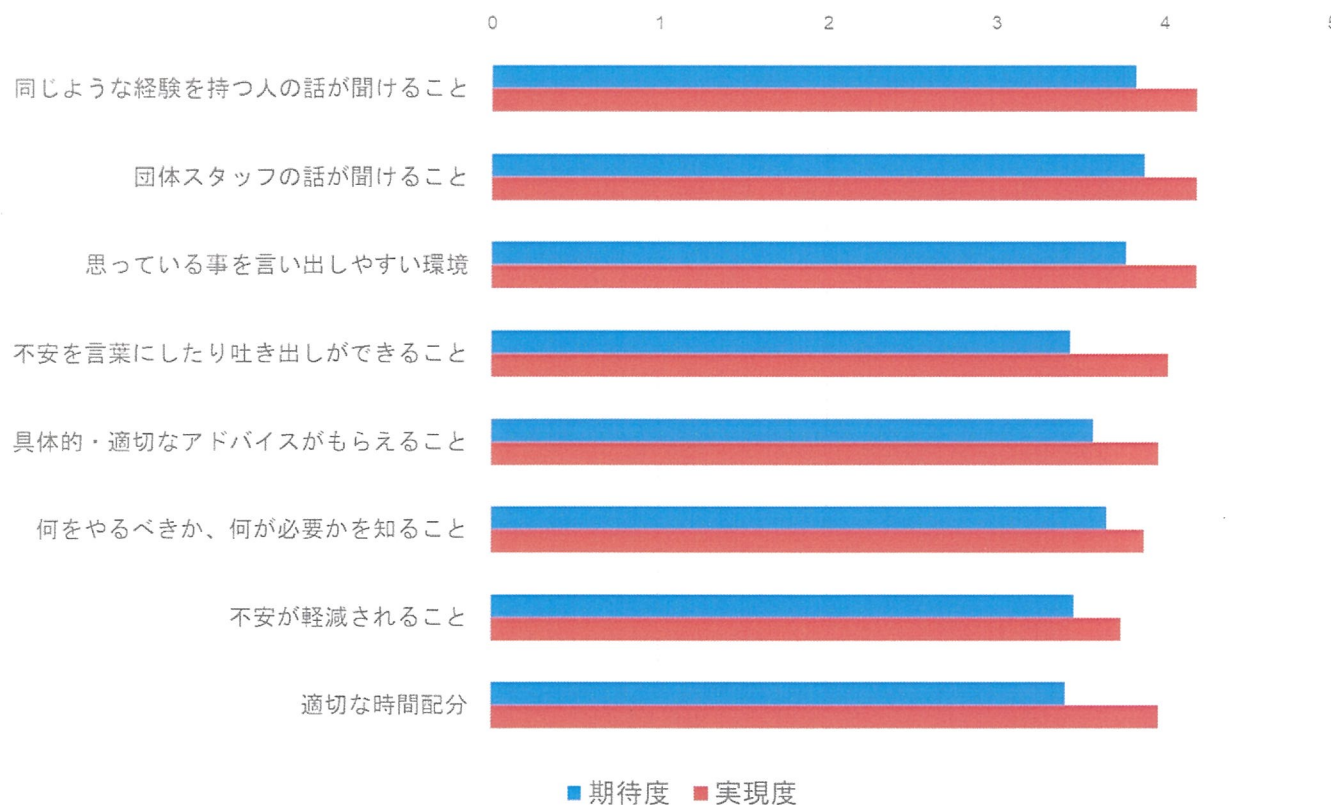
・「参加したきっかけ」を集計

- ・湘南・横浜若者サポートステーションからが7名
- ・ユースワークふじさわからが5名
- ・よこはま南部ユースプラザからが5名

※「よこはま南部ユースプラザ」に「区役所専門相談」を含めた。

参加者の期待をすべて上回る

ピアサポートカフェへの期待と実現度



- 参加後アンケートにて、8項目について、それぞれ「参加前の期待度」「参加してどれだけ実現したか」を確認

- 集計すると、8項目すべてで「期待」より「実現」が上回っていた。

- 参加者は期待以上に満足したことがわかる。

保護者の年齢が高いほど期待が高い

年代ごとの期待平均(1~5)

	40代	50代	60代	70代
同じような経験を持つ人の話が聞けること	3.8	3.8	4.0	4.0
団体スタッフの話が聞けること	3.2	4.0	4.0	4.0
思っている事を言い出しやすい環境	3.6	3.8	3.8	4.0
適切な時間配分	3.2	3.4	3.5	3.7
不安を言葉にしたり吐き出しができること	3.2	3.4	4.0	3.3
具体的・適切なアドバイスがもらえること	3.6	3.5	4.0	3.7
何をやるべきか、何が必要かを知ること	3.4	3.7	4.0	3.7
不安が軽減されること	3.2	3.5	3.8	3.7
総計	3.4	3.6	3.9	3.8
人数	5人	24人	4人	3人

・年代ごとの期待度の平均値。

- ・ 緑 = 平均値が高い
- ・ 赤 = 平均値が低い

・ 60代が3.9と一番高く続いて70代の3.8と続く。

・ 年齢が高くなるほど、ピアサポートカフェへの期待が上がる。

・ 保護者の切迫感が表れていると考えられる。

母は「何をやるべきか」を具体的に知りたい

男女の期待(1~5)

	女性	男性
同じような経験を持つ人の話が聞けること	3.8	4.0
団体スタッフの話が聞けること	3.8	4.1
思っている事を言い出しやすい環境	3.7	4.0
適切な時間配分	3.4	3.5
不安を言葉にしたり吐き出しができること	3.4	3.5
具体的・適切なアドバイスがもらえること	3.6	3.6
何をやるべきか、何が必要かを知ること	3.7	3.5
不安が軽減されること	3.5	3.5
総計	3.6	3.7
人数	26人	10人

・性別ごとの期待度の平均値。緑=高い 赤=低い

・男性=父親は「話を聞くこと」「思いを出すこと」を女性より期待する傾向がある。

・女性=母親は「何をやるべきか、必要か」を男性よりも期待する傾向がある

・母親のほうが、現状への危機感が高く、面前にあるこどもの変化を強く願っていると考えられる

参加回数で「今後も参加したい」 動機が変わる

	初回参加者	2回以上参加者
同じような経験を持つ人の話が聞けること	0.32	0.08
団体スタッフの話が聞けること	0.38	0.15
思っている事を言い出しやすい環境	0.64	0.15
適切な時間配分	0.63	-0.08
不安を言葉にしたりや吐き出しができること	0.21	0.00
具体的・適切なアドバイスがもらえること	0.11	-0.21
何をやるべきか、何が必要かを知ること	0.38	0.47
不安が軽減されること	0.16	-0.15

・各項目と、「今後も続けて参加したいか」との相関。
1に近いほど関係がある。

- ・ 緑 = 相関関係が強い
- ・ 赤 = 相関関係が弱い

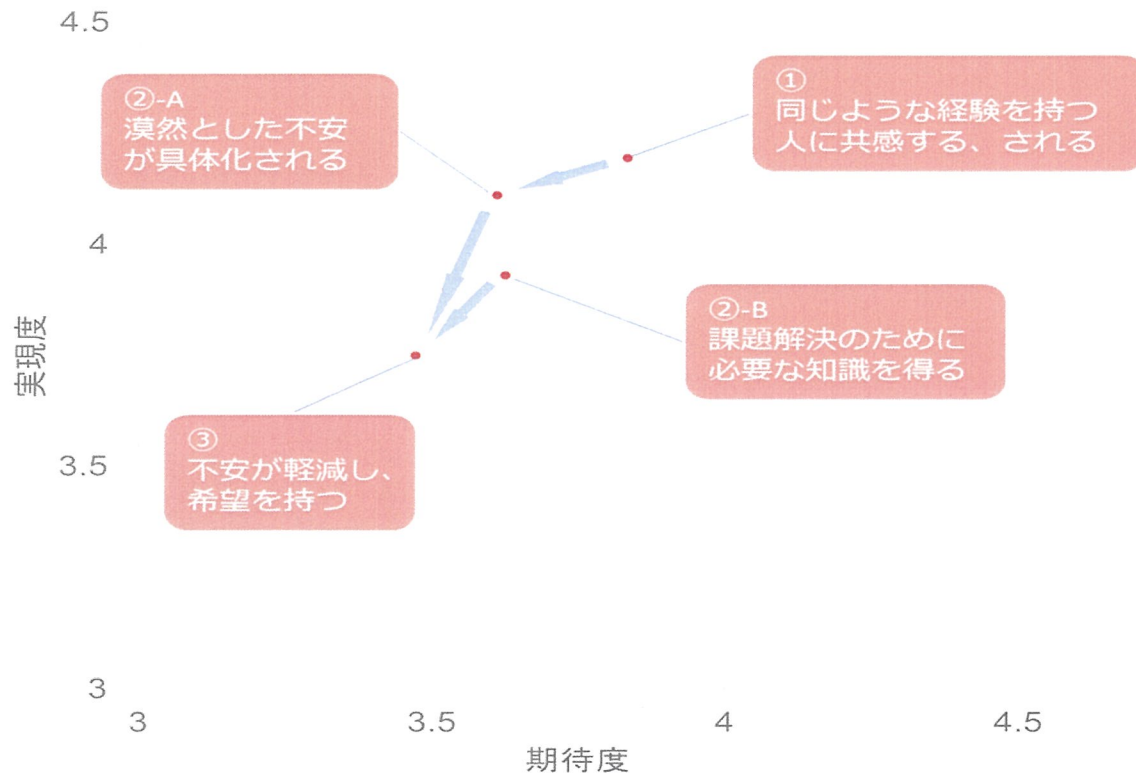
・ 初回は、思っていることが出せると、次回も参加したくなる。

・ 一方、2回目以上では、次に参加したくなる理由は、「何をやるか、何が必要か」のみになる。

※設問「今後も続けて参加したいか」と実現度との相関。1に近いほど関係している。

ロジックモデルにおける「初期変化」への効果が高い

変化プロセスと期待度-実現度



・「保護者は参加することで
① → ②-A、②-B → ③の順番
で変化する」との仮説を元に
ピアサポートカフェは設計され
た。左記は実際の値である。

・手前のプロセスほど実現度
が高く、より大きな効果が出
ている。

・①と②-Aが実現度4以上で特
に効果大きい。ピアサポー
トカフェの主要な効果といえ
る。

※①～③は以下のように項目をまとめたもの
①同じような経験を持つ人に共感する、される
↳ 同じような経験を持つ人の話が聞けること
↳ 団体スタッフの話が聞けること
↳ 思っている事を言い出しやすい環境
②-A 漠然とした不安が具体化される
↳ 不安を言葉にしたり吐き出しができること
②-B 課題解決のために必要な知識を得る
↳ 具体的・適切なアドバイスがもらえること
↳ 何をやるべきか、何が必要かを知ること
③ 不安が軽減し、希望を持つ
↳ 不安が軽減されること

コメント抜粋

スタッフの方参加者それぞれに声かけをこまめに行って下さり、**安心感**がありました

自分の気持ちを**共感**して頂ける場所でしたので、安心してお話をさせてもらいました

同じような立場の人が、多くいらっしゃることで、少し**安心感**を持ちました。

参加前は、出た方がよいのでは、という義務感のような気持ちがあり、しめっぽく暗いイメージを持っていましたが、明るい場所であること、人が多い事にまず驚きました

何をして良いかわからなかったのですが、**具体的に行動指針**を示して頂き、ありがたいです。

自分がやらなければならないことを、他の人の話を聞いて**自覚**することができた。が今後どうすれば良いのか、迷っている。

夫との話も合わなくてはいけないので、ハードルがあり、今は、**自信**がありませんがよく考えてみます。

色々な手段をその人のパターンに合わせて**提案**して頂けるのがすごいと思いました。

※期待度よりも実現度が低い場合でも、コメントには肯定的な記述が多い



Step4 データを分析する

②8050セミナー アンケート分析から見えた事

※1月末実施時点

だんだん満足度があがる傾向

	9月26日	10月24日	11月28日	12月5日	総計
セミナー全体	3.8	4.3	4.1	4.6	4.2
8050問題、若者問題についての知識	3.9	4.2	4.0	4.4	4.1
セミナーの環境設定（オンライン）	3.6	4.0	3.2	4.6	3.8
セミナーの環境設定（会場）	3.9	4.2	4.0	4.7	4.2
時間配分	3.8	4.1	4.3	4.6	4.1
質疑応答	3.7	4.1	4.4	4.3	4.1
スタッフの対応	4.2	4.4	4.7	4.7	4.5
今日のセミナーは、ご自分の今後の行動や仕事に活かせる内容がありましたか？	3.7	3.9	3.9	4.1	3.9
次回のセミナーにも参加したいと思いますか？	4.0	3.8	4.2	4.2	4.0
参加人数	33人	42人	25人	25人	125人

・アンケートで確認した、各項目の「満足度」の各回平均値を集計

緑 = 満足度が高い
赤 = 満足度が低い

・回を重ねるごとに全体的な満足度が上がる傾向にある

・複数回参加者もいること、運営側がセミナーの形態に慣れていった事が関係していると考えられる

・「スタッフの対応」が全体を通して最も満足度が高かった

コメント抜粋

社会問題として捉えていた8050問題をぐっと身近に感じることともに、わかりやすいご説明で理解しやすく**知識の整理**をすることができました

非常に有意義で、勉強になりました。その中でも、**共生保障**という言葉には共感しました

地域で支えていく、**支える側を増やしていく**にはどうしたらいいのか、これからの課題だと考えています

中高年のひきこもりの方に対し、自分に何ができるのか手探り中ですが、**ひとつのはしごとになれるよう努めていきたい**です

現状の課題を歴史から捉え考えることは大事です。**仕事上で生かしていきます。**

NPOや地域組織の活性化も併せて行っていく必要があるのだなと感じました

8050を**自分のこと**として考えることが出来ました

現在直接困っている**状況と、セミナーの問題意識が重ならない**ところがあった

音声が届いて聞きづらかった

自分の現状と合っていないため、よく理解できない

データなどで現状を整理、再確認することはできた。具体的なアクションについて別の機会があれば**もう少し知りたい**と思った

※音声・配信トラブルが初期に多発していた

Step5 事業改善につなげる

- ・分析&事業振り返りスタッフ意見交換を踏まえて

「K2家族会参加」も
ゴールの一つとする

(K2の家族支援全体の中でのピアサポートカフェの
位置づけを明確にする)

各相談事業所からの保護者
の「場面転換」として
の機能を強化する

家族会メンバー（ピアサポーター）とのマッチングを
より意識する

世代別のニーズ、
アプローチを考える

「つなぐ」スタッフ間で対象者
層や目的を一致・共有する

ロジックモデルやアンケートの
文言の修正など、事業改善の成
果をさらに測れるようになるた
めに、評価手法自体も改善する

更なる言語化可視化で、支援現場に落とし込んでいく

事業改善の具体案

母親、2回目以降の参加者のために「今日帰ったら何をしたらいいか」を持って帰ってもらえるようにマッチング、ファシリテートする

ピアサポーターへも「誰かの役に立っている」「自分の存在価値を見出す」「生きる」を支援できるようにマッチングやファシリテートをする

「客観的に、抽象的に」問題をとらえる傾向のある**父親**を巻き込むための支援スキルアップ

ロジックモデルの中間アウトカム以降は、**事業所での面談とセット**で効果を出す事を共通認識とする

保護者への聞き取り・把握事項への追加、**相談員研修**への活用 など

- ・アセスメントシート
- ・問診票
- ・リファーマーシート
- ・SFの項目 への追加

ケイスリー株式会社による考察

分析結果からの示唆と改善案の検討

親サロン（ピアサポートカフェ）参加者へのアンケート結果から、より成果を高めるための今後の改善案に繋げていくために、「年齢」「性別」「参加回数」という3つの切り口で検討することが有効と考えられる。

また、今後も、「年齢」「性別」「参加回数」別に、サロン参加者のニーズや課題に関するデータを収集・分析し、そこから得られた学びや示唆を、研修等を通じてスタッフ間で共有・活用していくことで、事業の成果を持続的に高めていくことが期待できる。

	分析により得られた示唆と解釈	改善案（一例）
年齢	保護者の年齢が高いほど期待が高い傾向があるため、保護者の切迫感が表れていると考えられる。	<ul style="list-style-type: none">ピアサポーターへも「誰かの役に立っている」「自分の存在価値を見出す」「生きる」を支援できるようにマッチングやファシリテートをする。
性別	女性＝母親は「何をやるべきか、必要か」を男性よりも期待する傾向があるため、母親の方が、現状への危機感が高く、面前にある子どもの変化を強く願っていると考えられる。	<ul style="list-style-type: none">母親のために「今日帰ったら何をしたらいいか」を持って帰ってもらえるようにマッチング、ファシリテートする。父親への聞き取りを実施し、把握事項を相談員研修に活用する。
参加回数	初回参加者は、「思っていることを言い出しやすい環境」、2回以上の参加者は、「何をやるか、何が必要かを知ること」を期待する傾向があるため、参加回数によって「今後も参加したい」動機が変わる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">2回目以降の参加者のために「今日帰ったら何をしたらいいか」を持って帰ってもらえるようにマッチング、ファシリテートする。

次年度に向けて

今回実施した、ロジックモデル作成～事業改善までの一連の流れを、今後も繰り返し実施し、改善を続けていくことで、変わり続ける環境の中でも、着実に事業の成果（社会的インパクト）を高めていくことが可能といえる。

その観点から、次年度は、以下のように、今回のアンケート結果から導かれた改善策を実施すると同時に、改めてロジックモデルやインパクトマップを見直し、その修正に基づくデータの収集・分析を行い、更なる事業改善、更なる成果の向上につなげていくことが期待される。（以下、スケジュール案）

スケジュール（案）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マイルストーン		改善策の検討・実施		調査設計・アンケートの作成完了			データ収集完了		結果の分析完了		改善策の決定		
成果・変化の計測	<ul style="list-style-type: none"> 場の雰囲気 環境 時間配分 他の参加者の話 団体スタッフの話 新たな視点 課題整理 不安の言語化（はき出し） アドバイス 不安の軽減 	本事業を踏まえ改善策の検討		調査設計の見直し*			アンケート/ヒアリング実施		結果の分析・考察		ロジックモデル・指標の見直し/ 新規改善策の検討**		
		↓		改善策の実施									

*新規の改善策によりロジックモデルに変更はあるか、必要なデータ収集方法や分析手法に変更がないかを確認する

**改善策の効果が早期に顕現するとは限らないため、必ずしも新しい改善策を実施する必要はなく既存策の継続もありうる

支援の現場で活用されてこそ、
価値があるのが社会インパクトの「見える化」なので、
次年度に向けて、宜しくお願いします！

©K2 ITソリューション部 評価分析チーム